

# 四半期報告書

(第13期第2四半期)

株式会社ポーラ・オルビスホールディングス



---

# 四 半 期 報 告 書

---

- 1 本書は四半期報告書を金融商品取引法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用し提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 2 本書には、上記の方法により提出した四半期報告書に添付された四半期レビュー報告書及び上記の四半期報告書と同時に提出した確認書を末尾に綴じ込んでおります。

# 目 次

頁

## 【表紙】

第一部 【企業情報】 .....	1
第1 【企業の概況】 .....	1
1 【主要な経営指標等の推移】 .....	1
2 【事業の内容】 .....	1
第2 【事業の状況】 .....	2
1 【事業等のリスク】 .....	2
2 【経営上の重要な契約等】 .....	2
3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】 .....	2
第3 【提出会社の状況】 .....	6
1 【株式等の状況】 .....	6
2 【役員の状況】 .....	10
第4 【経理の状況】 .....	11
1 【四半期連結財務諸表】 .....	12
2 【その他】 .....	22
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】 .....	23

四半期レビュー報告書

確認書

**【表紙】**

**【提出書類】** 四半期報告書

**【根拠条文】** 金融商品取引法第24条の4の7第1項

**【提出先】** 関東財務局長

**【提出日】** 2018年8月10日

**【四半期会計期間】** 第13期第2四半期(自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)

**【会社名】** 株式会社ポーラ・オルビスホールディングス

**【英訳名】** POLA ORBIS HOLDINGS INC.

**【代表者の役職氏名】** 代表取締役社長 鈴木 郷史

**【本店の所在の場所】** 東京都品川区西五反田二丁目2番3号  
(同所は登記上の本店所在地で実際の業務は「最寄りの連絡場所」で行っております。)

**【電話番号】** 該当事項はありません。

**【事務連絡者氏名】** 該当事項はありません。

**【最寄りの連絡場所】** 東京都中央区銀座一丁目7番7号

**【電話番号】** 03-3563-5517

**【事務連絡者氏名】** 取締役財務担当 藤井 彰

**【縦覧に供する場所】** 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

連結経営指標等

回次		第12期 第2四半期 連結累計期間	第13期 第2四半期 連結累計期間	第12期
会計期間		自 2017年1月1日 至 2017年6月30日	自 2018年1月1日 至 2018年6月30日	自 2017年1月1日 至 2017年12月31日
売上高	(百万円)	117,378	125,262	244,335
経常利益	(百万円)	20,944	22,723	39,250
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	(百万円)	13,955	15,321	27,137
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	14,339	14,417	27,740
純資産額	(百万円)	194,144	203,304	198,845
総資産額	(百万円)	240,444	250,281	252,567
1株当たり四半期(当期) 純利益金額	(円)	63.10	69.27	122.70
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)	63.01	69.18	122.54
自己資本比率	(%)	80.5	81.1	78.6
営業活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	17,605	15,488	35,333
投資活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	△21,059	△11,604	△22,065
財務活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	△6,428	△11,985	△12,945
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(百万円)	65,638	67,583	75,944

回次		第12期 第2四半期 連結会計期間	第13期 第2四半期 連結会計期間
会計期間		自 2017年4月1日 至 2017年6月30日	自 2018年4月1日 至 2018年6月30日
1株当たり四半期純利益金額	(円)	36.97	40.30

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 売上高には、消費税等は含んでおりません。
- 3 当社は、2017年4月1日付で普通株式1株につき4株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり四半期(当期)純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額を算定しております。

#### 2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社についても異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日において当社グループが判断したものであります。

#### (1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間（2018年1月1日～2018年6月30日）におけるわが国の経済は、雇用・所得環境の改善が続かなかで、個人消費に持ち直しの動きが見られるなど、緩やかな回復基調が続きました。

国内化粧品市場においては、訪日観光客のインバウンド消費の伸長が続き、堅調に推移しました。なお、インバウンド消費を除く市場規模は微減と推察されます。海外化粧品市場においては、中国を中心に、アジアでは堅調に成長し、緩やかな拡大傾向が続いております。

このような市場環境のもと、2017年からスタートした4ヶ年中期経営計画（2017年から2020年）に基づき、国内のさらなる収益性向上と海外事業での黒字化、次世代の成長ブランド創出を達成すべく、取り組みを進めてまいりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間における業績は次のとおりとなりました。

当第2四半期連結累計期間の売上高は、基幹ブランドであるPOLAブランドに加え、育成ブランドであるTHREEブランド及びDECENCIAブランドの好調により、前年同期比6.7%増の125,262百万円となりました。営業利益は売上高増による売上総利益増加により、前年同期比10.3%増の23,103百万円、経常利益は前年同期比8.5%増の22,723百万円となりました。以上の結果により、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期比9.8%増の15,321百万円となりました。

#### [業績の概要]

	前第2四半期 連結累計期間 (百万円)	当第2四半期 連結累計期間 (百万円)	前年同期	
			増減額 (百万円)	増減率 (%)
売上高	117,378	125,262	7,884	6.7
営業利益	20,944	23,103	2,158	10.3
経常利益	20,944	22,723	1,779	8.5
親会社株主に帰属する 四半期純利益	13,955	15,321	1,365	9.8

[セグメント別の業績]

売上高（外部顧客への売上高）

	前第2四半期 連結累計期間 (百万円)	当第2四半期 連結累計期間 (百万円)	前年同期	
			増減額 (百万円)	増減率 (%)
ビューティケア事業	109,303	116,973	7,670	7.0
不動産事業	1,348	1,354	5	0.4
その他	6,726	6,934	208	3.1
合計	117,378	125,262	7,884	6.7

セグメント利益又は損失（△）（営業利益又は損失（△））

	前第2四半期 連結累計期間 (百万円)	当第2四半期 連結累計期間 (百万円)	前年同期	
			増減額 (百万円)	増減率 (%)
ビューティケア事業	20,095	22,253	2,157	10.7
不動産事業	592	564	△28	△4.8
その他	165	519	354	214.6
セグメント利益の調整額 (注)	91	△234	△325	—
合計	20,944	23,103	2,158	10.3

(注) セグメント利益の調整額とは、グループの内部取引に伴う利益及びセグメントに含まれない経費などを連結時に消去・加算した金額であります。なお、セグメント利益の調整額の詳細につきましては、「第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項（セグメント情報等） 1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報（注2）」をご覧ください。

(ビューティケア事業)

ビューティケア事業は、基幹ブランドとして「POLA」「ORBIS」を、海外ブランドとして「Jurlique」「H2O PLUS」を、育成ブランドとして「THREE」「DECENCIA」を展開しております。

POLAブランドでは、ブランド認知向上を足がかりにさらなる事業基盤強化、ブランド価値向上を進めるべく、高機能商品の投入及び育成、戦略的な店舗網の拡大に取り組んでおります。国内市場においては、2017年に発売した日本で初めて承認されたシワを改善する薬用化粧品「リンクルショット メディカル セラム」を、2018年1月に価格改定しました。シワに悩む多くの女性の声に応えたシワを改善するという商品特長と対面カウンセリング、プロモーションでの積極的な情報発信により、顧客総数の増加と、その他商品とのクロスセルに繋がっております。加えて、好立地店舗はブランド力向上に伴い集客力が高まったことにより、好調に推移しております。海外市場においては、「リンクルショット メディカル セラム」を、2018年6月に香港、台湾で発売し、中華圏でのさらなるブランド認知拡大により、全体として好調に売上成長しております。以上の結果、POLAブランドは前年同期を上回る売上高となりました。

ORBISブランドでは、高収益事業へと再成長を遂げるため、ブランド差別性の創出や一貫した市場発信による、存在感の向上に取り組んでおります。国内市場においては、主力商品である「ORBIS＝U」シリーズを中心としたプロモーションを強化したことにより、新規顧客の売上は増加したものの、全体の売上を押し上げるには至らず、前年同期を下回る売上高となりました。海外市場においては、中国市場及びシンガポール市場では成長トレンドを維持しております。以上の結果、ORBISブランドは前年同期を下回る売上高となりました。一方で、費用効率が向上したことにより、前年同期を上回る営業利益となりました。

海外ブランドについては、Jurliqueブランドは豪州とアジア、H2O PLUSブランドは本拠地である米国での事業成長を目指した取り組みを行ってまいりました。Jurliqueブランドは、ブランドイメージを刷新するグローバルキャンペーンを展開したものの、中国市場や豪州市場での苦戦が続いたことにより、前年同期を下回る売上高となりました。H2O PLUSブランドは、販売チャネルの適正化を目的とし、主要リテーラーから撤退した影響に加え、ロシアへの出荷減により、前年同期を下回る売上高となりました。一方で、販管費を抑制したことにより、前年同期で損失削減となりました。



育成ブランドについては、THREEブランドやDECENCIAブランドの好調により、前年同期を上回る売上高となりました。

以上の結果、売上高（外部顧客に対する売上高）は116,973百万円（前年同期比7.0%増）、営業利益は22,253百万円（前年同期比10.7%増）となりました。

#### （不動産事業）

不動産事業では、都市部のオフィスビル賃貸を中心に、魅力的なオフィス環境の整備による賃料の維持向上と空室率の低下に取り組むとともに、子育て支援に特化した賃貸マンション事業も展開しております。当第2四半期連結累計期間は、市況や他社状況を勘案した入居条件の見直しや、ビルの価値向上に向けた取り組みを行った結果、前年同期を上回る売上高となりました。一方で、オフィス環境整備の費用が一時的に増加したことにより、前年同期を下回る営業利益となりました。

以上の結果、売上高（外部顧客に対する売上高）は1,354百万円（前年同期比0.4%増）、営業利益は564百万円（前年同期比4.8%減）となりました。

#### （その他）

その他に含まれている事業は、医薬品事業及びビルメンテナンス事業であります。

医薬品事業では、化粧品や医薬部外品研究で培ってきた当社グループの研究成果を活用し、新規医薬品の開発・製造・販売及び医薬品の製造受託を行っております。当第2四半期連結累計期間は、重点領域である皮膚科領域にリソースを集中した継続的な活動に加え、尋常性ざ瘡治療配合剤「デュアック®配合ゲル」の販売や、2016年に発売した爪白癬治療剤「ルコナック®爪外用液5%」及び「ヘパリン類似物質外用泡状スプレー0.3%[PP]」により、前年同期を上回る売上高となりました。

ビルメンテナンス事業は、当社グループ会社を主な取引先とし、ビルの運営管理を行っております。当第2四半期連結累計期間は、人材獲得競争の激化の影響で、派遣要員の確保が進まなかったことにより、前年同期を下回る売上高となりました。

以上の結果、売上高（外部顧客に対する売上高）は6,934百万円（前年同期比3.1%増）、営業利益は519百万円（前年同期比214.6%増）となりました。

## （2） 財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ2,285百万円減少し、250,281百万円（前連結会計年度末比0.9%減）となりました。主な増減項目は、余剰資金の運用による投資有価証券の増加7,858百万円により増加し、一方で現金及び預金の減少8,400百万円、受取手形及び売掛金の減少1,966百万円により減少しております。

負債につきましては、前連結会計年度末に比べ6,744百万円減少し、46,977百万円（前連結会計年度末比12.6%減）となりました。主な増減項目は、支払手形及び買掛金の減少665百万円、短期借入金の減少1,600百万円、未払法人税等の減少609百万円、未払金等の減少に伴う流動負債「その他」の減少2,053百万円により減少しております。

純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ4,458百万円増加し、203,304百万円（前連結会計年度末比2.2%増）となりました。主な増減項目は、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上15,321百万円により増加し、一方で為替の影響による為替換算調整勘定の減少968百万円、剰余金の配当9,953百万円により減少しております。

(3) キャッシュ・フローの状況の分析

当第2四半期連結会計期間末における連結ベースの現金及び現金同等物の四半期末残高は、前連結会計年度末に比べ8,361百万円減少し、67,583百万円（前年同期比3.0%増）となりました。当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動によるキャッシュ・フローは、15,488百万円の収入（前年同期比12.0%減）となりました。

主な要因は、税金等調整前四半期純利益22,569百万円、減価償却費3,341百万円、売上債権の増減額1,558百万円により資金は増加し、一方で、たな卸資産の増減額2,404百万円、未払金の増加等によるその他の負債の増減額789百万円、法人税等の支払額8,562百万円により資金は減少しております。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動によるキャッシュ・フローは、11,604百万円の支出（前年同期比44.9%減）となりました。主な要因は、有価証券の売却及び償還による収入13,885百万円により資金は増加し、一方で、有形固定資産の取得による支出4,048百万円及び無形固定資産の取得による支出1,212百万円、資金運用計画に沿った余剰資金計画に伴う有価証券の取得による支出1,000百万円及び投資有価証券の取得による支出19,382百万円により資金は減少しております。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動によるキャッシュ・フローは、11,985百万円の支出（前年同期比86.4%増）となりました。主な要因は、短期借入金の純増減額1,600百万円、配当金の支払額9,950百万円によっております。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について、重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、2,252百万円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(6) 主要な設備

当第2四半期連結累計期間において、主要な設備の著しい変動及び主要な設備の前連結会計年度末における計画の著しい変更はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

##### ① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	800,000,000
計	800,000,000

##### ② 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2018年6月30日)	提出日現在 発行数(株) (2018年8月10日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	229,136,156	229,136,156	東京証券取引所 (市場第一部)	完全議決権株式であり、権利 内容に何ら限定のない当社の 標準となる株式であります。 なお、単元株式数は100株で あります。
計	229,136,156	229,136,156	—	—

(2) 【新株予約権等の状況】

当第2四半期会計期間において発行した新株予約権は、次のとおりであります。

決議年月日	2018年3月28日
新株予約権の数(個)	274(注)1
新株予約権のうち自己新株予約権の数	—
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式
新株予約権の目的となる株式の数(株)	10,960(注)1
新株予約権の行使時の払込金額(円)	新株予約権の行使により発行又は移転される株式1株あたりの金額を1円とし、これに付与株式数を乗じた金額とする。
新株予約権の行使期間	2018年4月13日～2048年4月12日
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 3,839 資本組入額 (注)2
新株予約権の行使の条件	① 新株予約権の割当を受けた者は、当社および当社子会社のいずれの取締役の地位をも喪失した日の翌日から15年を経過する日までの間に限り行使できるものとする。ただし、当該15年を経過する日が上記の新株予約権の行使期間を超える場合には、当該行使期間の末日までとする。 ② 新株予約権者が死亡した場合、その者の相続人は、当該被相続人が死亡した日の翌日から6ヶ月を経過する日までの間に限り、新株予約権を一括してのみ行使することができる。 ③ その他の権利行使の条件は、当社と新株予約権者との間で締結する「新株予約権割当契約書」に定めるところによる。
新株予約権の譲渡に関する事項	譲渡による新株予約権の取得については、当社の取締役会の承認を要するものとする。
代用払込みに関する事項	—
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注)3

- (注)1 新株予約権1個あたりの目的である株式数(以下、「付与株式数」という。)は、40株とする。  
ただし、新株予約権を割り当てる日(以下、「割当日」という。)の翌日以降、当社が普通株式につき、株式分割(当社普通株式の無償割当を含む。以下、株式分割の記載につき同じ。)又は株式併合を行う場合には、新株予約権のうち、当該株式分割又は株式併合の時点で行使されていない新株予約権について、付与株式数を次の計算により調整する。  
調整後付与株式数=調整前付与株式数×分割又は併合の比率  
また、上記の他、付与株式数の調整を必要とするやむを得ない事由が生じたときは、当社は、当社の取締役会において必要と認められる付与株式数の調整を行うことができる。  
なお、上記の調整の結果生じる1株未満の端数は、これを切り捨てる。
- 2 ①新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金の額は、会社計算規則第17条第1項に従い算出される資本金等増加限度額の2分の1の金額とし、計算の結果1円未満の端数が生じる場合は、これを切り上げるものとする。  
②新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本準備金の額は、上記①記載の資本金等増加限度額から上記①に定める増加する資本金の額を減じた額とする。
- 3 当社が合併(当社が合併により消滅する場合に限る。)、吸収分割もしくは新設分割(それぞれ当社が分割会社となる場合に限る。)、株式交換もしくは株式移転(それぞれ当社が完全子会社となる場合に限る。)(以上を総称して以下、「組織再編行為」という。)をする場合において、組織再編行為の発生日(吸収合併につき吸収合併がその効力を生ずる日、新設合併につき新設合併設立会社成立の日、吸収分割につき吸収分割の効力発生日、新設分割につき新設分割設立会社成立の日、株式交換につき株式交換がその効力を生ずる日、及び株式移転につき株式移転設立完全親会社の成立の日をいう。以下同じ。)の直前において残存する新株予約権(以下、「残存新株予約権」という。)を保有する新株予約権者に対し、それぞれの場合につ

き、会社法236条第1項第8号のイからホまでに掲げる株式会社（以下「再編対象会社」という。）の新株予約権をそれぞれ交付することとする。ただし、以下の各号に沿って再編対象会社の新株予約権を交付する旨を、吸収合併契約、新設合併契約、吸収分割契約、新設分割計画、株式交換契約又は株式移転計画において定めた場合に限る。

- ① 交付する再編対象会社の新株予約権の数  
新株予約権者が保有する残存新株予約権の数と同一の数をそれぞれ交付するものとする。
- ② 新株予約権の目的である再編対象会社の株式の種類  
再編対象会社の普通株式とする。
- ③ 新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数  
組織再編行為の条件等を勘案のうえ、上記表中に定める新株予約権の目的である株式の種類および数に準じて決定する。
- ④ 新株予約権の行使に際して出資される財産の価額  
交付される各新株予約権の行使に際して出資される財産の価額は、以下に定める再編後行使価額に上記③に従って決定される当該各新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数を乗じて得られる金額とする。再編後行使価額は、交付される各新株予約権を行使することにより交付を受けることができる再編対象会社の株式1株当たり1円とする。
- ⑤ 新株予約権を行使することができる期間  
上記表中に定める新株予約権を行使することができる期間の開始日と組織再編行為の効力発生日のいずれか遅い日から、上記表中に定める新株予約権を行使することができる期間の満了日までとする。
- ⑥ 新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金及び資本準備金に関する事項  
上記2に準じて決定する。
- ⑦ 譲渡による新株予約権の取得の制限  
譲渡による新株予約権の取得については、再編対象会社の取締役会の決議による承認を要するものとする。
- ⑧ 新株予約権の行使条件  
上記表中に定める新株予約権の行使条件に準じて決定する。
- ⑨ 新株予約権の取得条項  
残存新株予約権に定められた事項に準じて決定する。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2018年4月1日～ 2018年6月30日	—	229,136,156	—	10,000	—	—

## (6) 【大株主の状況】

2018年6月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
公益財団法人ポーラ美術振興財団	東京都品川区西五反田二丁目2番3号	78,616,944	34.31
鈴木 郷史	静岡県静岡市葵区	50,661,480	22.11
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	東京都中央区晴海一丁目8番11号	7,437,500	3.25
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	東京都港区浜松町二丁目11番3号	5,841,400	2.55
中村 直子	神奈川県横浜市鶴見区	4,770,832	2.08
鈴木 宏美	東京都世田谷区	3,113,832	1.36
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 常任代理人 香港上海銀行東京支店 カストディ業務部	ONE LINCOLN STREET, BOSTON MA USA 02111 (東京都中央区日本橋三丁目11番1号)	2,864,788	1.25
ポーラ・オルビスグループ従業員持株会	東京都品川区西五反田二丁目2番3号	2,042,624	0.89
CHASE MANHATTAN BANK GTS CLIENTS ACCOUNT ESCROW 常任代理人 株式会社みずほ銀行決済営業部	5TH FLOOR, TRINITY TOWER 9, THOMAS MORE STREET LONDON, E1W 1YT, UNITED KINGDOM (東京都港区港南二丁目15番1号 品川インターシティA棟)	2,019,689	0.88
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口9)	東京都中央区晴海一丁目8番11号	1,645,100	0.72
計	—	159,014,189	69.40

(注) 上記のほか当社保有の自己株式7,957,853株(3.47%)があります。

(7) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

2018年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 7,957,800	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 221,149,500	2,211,495	—
単元未満株式	普通株式 28,856	—	1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	229,136,156	—	—
総株主の議決権	—	2,211,495	—

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式53株が含まれております。

② 【自己株式等】

2018年6月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社ポーラ・オルビスホ ールディングス	東京都品川区西五反田 二丁目2番3号	7,957,800	—	7,957,800	3.47
計	—	7,957,800	—	7,957,800	3.47

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（2018年4月1日から2018年6月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2018年1月1日から2018年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人により四半期レビューを受けております。

なお、従来、当社が監査証明を受けている新日本有限責任監査法人は、2018年7月1日に名称を変更し、EY新日本有限責任監査法人となりました。



1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2017年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2018年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	76,962	68,562
受取手形及び売掛金	29,435	27,469
有価証券	23,899	23,499
商品及び製品	13,740	15,492
仕掛品	1,150	910
原材料及び貯蔵品	4,505	5,162
その他	12,106	10,619
貸倒引当金	△44	△46
流動資産合計	161,756	151,670
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	19,396	19,457
土地	13,069	14,686
その他（純額）	12,862	11,972
有形固定資産合計	45,329	46,115
無形固定資産		
のれん	883	784
商標権	9,026	8,309
その他	6,393	6,325
無形固定資産合計	16,303	15,420
投資その他の資産		
投資有価証券	21,943	29,801
その他	7,318	7,366
貸倒引当金	△83	△92
投資その他の資産合計	29,178	37,075
固定資産合計	90,810	98,611
資産合計	252,567	250,281

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2017年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2018年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	6,369	5,703
短期借入金	1,600	—
未払法人税等	4,223	3,613
賞与引当金	1,589	1,163
ポイント引当金	3,678	3,342
その他の引当金	221	51
その他	23,014	20,961
流動負債合計	40,696	34,834
固定負債		
その他の引当金	53	52
退職給付に係る負債	4,378	4,280
その他	8,592	7,809
固定負債合計	13,024	12,142
負債合計	53,721	46,977
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	10,000	10,000
資本剰余金	90,240	90,240
利益剰余金	98,273	103,641
自己株式	△2,188	△2,188
株主資本合計	196,326	201,694
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	8	8
為替換算調整勘定	2,929	1,961
退職給付に係る調整累計額	△810	△739
その他の包括利益累計額合計	2,127	1,229
新株予約権	260	255
非支配株主持分	131	124
純資産合計	198,845	203,304
負債純資産合計	252,567	250,281

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2017年1月1日 至2017年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2018年1月1日 至2018年6月30日)
売上高	117,378	125,262
売上原価	18,925	19,847
売上総利益	98,452	105,415
販売費及び一般管理費		
販売手数料	26,060	28,431
販売促進費	11,627	11,549
広告宣伝費	4,473	5,580
給料手当及び賞与	10,829	11,151
賞与引当金繰入額	1,009	1,034
ポイント引当金繰入額	3,309	2,970
その他	20,196	21,594
販売費及び一般管理費合計	77,507	82,311
営業利益	20,944	23,103
営業外収益		
受取利息	115	105
その他	113	160
営業外収益合計	228	265
営業外費用		
支払利息	37	31
為替差損	173	585
その他	18	28
営業外費用合計	229	645
経常利益	20,944	22,723
特別利益		
固定資産売却益	623	2
為替換算調整勘定取崩益	5	—
新株予約権戻入益	—	26
特別利益合計	629	28
特別損失		
固定資産売却損	19	6
固定資産除却損	139	145
訴訟損失引当金繰入額	370	—
その他	7	30
特別損失合計	535	182
税金等調整前四半期純利益	21,037	22,569
法人税、住民税及び事業税	7,548	8,062
法人税等調整額	△476	△814
法人税等合計	7,071	7,248
四半期純利益	13,966	15,320
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	10	△0
親会社株主に帰属する四半期純利益	13,955	15,321

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2017年1月1日 至 2017年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2018年1月1日 至 2018年6月30日)
四半期純利益	13,966	15,320
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	10	△0
為替換算調整勘定	324	△974
退職給付に係る調整額	37	70
その他の包括利益合計	373	△903
四半期包括利益	14,339	14,417
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	14,323	14,423
非支配株主に係る四半期包括利益	15	△6

## (3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2017年1月1日 至 2017年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2018年1月1日 至 2018年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	21,037	22,569
減価償却費	3,047	3,341
のれん償却額	30	29
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△376	△413
ポイント引当金の増減額 (△は減少)	△4	△335
その他の引当金の増減額 (△は減少)	367	0
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	58	2
受取利息及び受取配当金	△115	△105
支払利息	37	31
為替差損益 (△は益)	△109	750
為替換算調整勘定取崩益	△5	—
固定資産売却損益 (△は益)	△604	4
固定資産除却損	139	145
売上債権の増減額 (△は増加)	△1,018	1,558
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△1,402	△2,404
仕入債務の増減額 (△は減少)	701	△587
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△939	129
その他の資産の増減額 (△は増加)	211	128
その他の負債の増減額 (△は減少)	3,821	△789
その他	39	101
小計	24,915	24,158
利息及び配当金の受取額	107	116
利息の支払額	△37	△31
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	△7,379	△8,562
その他	△0	△192
営業活動によるキャッシュ・フロー	17,605	15,488

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2017年1月1日 至 2017年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2018年1月1日 至 2018年6月30日)
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	△331	△304
定期預金の払戻による収入	671	315
有価証券の取得による支出	△8,900	△1,000
有価証券の売却及び償還による収入	4,500	13,885
有形固定資産の取得による支出	△2,703	△4,048
有形固定資産の売却による収入	697	186
無形固定資産の取得による支出	△1,009	△1,212
固定資産の除却による支出	△58	△13
投資有価証券の取得による支出	△13,812	△19,382
長期前払費用の取得による支出	△25	△82
敷金及び保証金の差入による支出	△166	△83
敷金及び保証金の回収による収入	68	176
その他	10	△39
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△21,059</b>	<b>△11,604</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	—	△1,600
リース債務の返済による支出	△348	△434
配当金の支払額	△6,079	△9,950
その他	△0	△0
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△6,428</b>	<b>△11,985</b>
現金及び現金同等物に係る換算差額	62	△261
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△9,819	△8,361
現金及び現金同等物の期首残高	75,458	75,944
現金及び現金同等物の四半期末残高	※1 65,638	※1 67,583

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

当第2四半期連結累計期間 (自 2018年1月1日 至 2018年6月30日)
当第2四半期連結会計期間において、株式会社オルラーヌジャパンの清算手続きが完了したため、連結の範囲から除外しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

偶発債務

下記相手先の金融機関等からの債務に対し、債務保証を行っております。

前連結会計年度 (2017年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2018年6月30日)
従業員 28百万円	従業員 23百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※1 現金及び現金同等物の四半期連結累計期間末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第2四半期連結累計期間 (自 2017年1月1日 至 2017年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2018年1月1日 至 2018年6月30日)
現金及び預金	66,803 百万円	68,562 百万円
有価証券	28,900 "	23,499 "
計	95,703 百万円	92,062 百万円
預入期間が3か月超の定期預金	△1,165 "	△979 "
株式及び償還期間が3か月超の債券等	△28,900 "	△23,499 "
現金及び現金同等物	65,638 百万円	67,583 百万円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2017年1月1日 至 2017年6月30日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2017年3月29日 定時株主総会	普通株式	6,082	110.00	2016年12月31日	2017年3月30日	利益剰余金

2 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2017年7月31日 取締役会	普通株式	5,529	25.00	2017年6月30日	2017年9月8日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自 2018年1月1日 至 2018年6月30日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年3月27日 定時株主総会	普通株式	9,953	45.00	2017年12月31日	2018年3月28日	利益剰余金

2 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年7月30日 取締役会	普通株式	7,741	35.00	2018年6月30日	2018年9月7日	利益剰余金



(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自2017年1月1日至2017年6月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	ビューティ ケア事業	不動産事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	109,303	1,348	110,651	6,726	117,378	—	117,378
セグメント間の内部 売上高又は振替高	37	254	292	1,216	1,508	△1,508	—
計	109,340	1,603	110,943	7,942	118,886	△1,508	117,378
セグメント利益	20,095	592	20,688	165	20,853	91	20,944

- (注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、医薬品事業及びビルメンテナンス事業を含んでおります。
- 2 セグメント利益の調整額91百万円には、セグメント間取引消去1,615百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,524百万円が含まれております。全社費用は、報告セグメントに帰属しない当社本社の管理部門に係る費用等であります。
- 3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間(自2018年1月1日至2018年6月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	ビューティ ケア事業	不動産事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	116,973	1,354	118,328	6,934	125,262	—	125,262
セグメント間の内部 売上高又は振替高	47	256	303	1,130	1,434	△1,434	—
計	117,021	1,610	118,631	8,065	126,697	△1,434	125,262
セグメント利益	22,253	564	22,817	519	23,337	△234	23,103

- (注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、医薬品事業及びビルメンテナンス事業を含んでおります。
- 2 セグメント利益の調整額△234百万円には、セグメント間取引消去1,537百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,771百万円が含まれております。全社費用は、報告セグメントに帰属しない当社本社の管理部門に係る費用等であります。
- 3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(有価証券関係)

満期保有目的の債券で時価のあるものが、企業集団の事業の運営において重要なものとなっており、かつ、当該有価証券の四半期連結貸借対照表計上額その他の金額に前連結会計年度の末日に比べて著しい変動が認められます。

満期保有目的の債券で時価のあるもの

区分	前連結会計年度 (2017年12月31日)			当第2四半期連結会計期間 (2018年6月30日)		
	連結貸借対照表 計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)	四半期連結貸借 対照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
(1)国債・地方債等	—	—	—	—	—	—
(2)社債	300	301	1	3,143	3,135	△8
(3)その他	45,508	45,372	△135	50,074	49,686	△387
合計	45,808	45,673	△134	53,217	52,821	△395

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自 2017年1月1日 至 2017年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2018年1月1日 至 2018年6月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	63.10円	69.27円
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(百万円)	13,955	15,321
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(百万円)	13,955	15,321
普通株式の期中平均株式数(株)	221,177,997	221,178,314
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	63.01円	69.18円
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する 四半期純利益調整額(百万円)	—	—
普通株式増加数(株)	282,042	282,985
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株 当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜 在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があ ったものの概要	—	—

(注) 当社は、2017年4月1日付で普通株式1株につき4株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり四半期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額を算定しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 2 【その他】

当期中間配当に関し、2018年7月30日開催の取締役会において、2018年6月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

1. 中間配当金の総額	7,741百万円
2. 1株当たり中間配当額	35.00円
3. 支払請求権の効力発生日及び支払開始日	2018年9月7日

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

# 独立監査人の四半期レビュー報告書

2018年8月10日

株式会社ポーラ・オルビスホールディングス  
取締役会 御中

## EY新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 神山 宗 武 印  
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 杉本 義 浩 印  
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ポーラ・オルビスホールディングスの2018年1月1日から2018年12月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2018年4月1日から2018年6月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2018年1月1日から2018年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ポーラ・オルビスホールディングス及び連結子会社の2018年6月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。



**【表紙】**

【提出書類】	確認書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の8第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2018年8月10日
【会社名】	株式会社ポーラ・オルビスホールディングス
【英訳名】	POLA ORBIS HOLDINGS INC.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 鈴木 郷史
【最高財務責任者の役職氏名】	該当事項はありません。
【本店の所在の場所】	東京都品川区西五反田二丁目2番3号 (同所は登記上の本店所在地で実際の業務は以下で行っております。) 東京都中央区銀座一丁目7番7号
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役社長鈴木郷史は、当社の第13期第2四半期（自 2018年4月1日 至 2018年6月30日）の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認いたしました。

2 【特記事項】

確認に当たり、特記すべき事項はありません。





